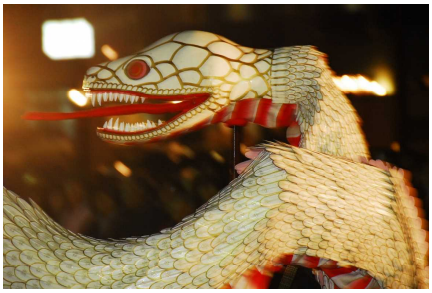
なっちゃん隊 深掘りレポート　Ｖｏｌ．９　白蛇姫



広瀬すずさん演じるなつが、演劇部で取り組む白蛇伝説。日本最初の長編アニメ映画の白蛇伝がモチーフとも言われています。実は、十勝にも白蛇とアイヌにまつわる創作物語があるのをご存知ですか。今回は、その物語を振興局なっちゃん隊が紹介します。

十勝西部、現在の鹿追町にある夫婦山、東と西のヌプカウシヌプリ。裾野に広がる豊かな大地で、アイヌの人達は楽しい毎日を過ごしていました。ところがある年のこと。冬が過ぎて春が来ても、寒さが少しも衰えず、夏も大雨が降り続きました。夏が過ぎ、秋になっても同じです。

食糧は底をつき、山には、熊や鹿、うさぎの姿も見かけません。アイヌの人達は本当に困り果ててしまったので、皆で神様にお祈りすることにしました。祭壇の前で昼も夜も祈り続けて７日目。皆、とうとう疲れ果てて眠ってしまいました。

と、その時です。眠っている人々の夢の中に女神が現れました。

「他の人と争わず、ひたすら神に祈る心を認めてあげましょう。明日の朝、お前達が目を覚ました時、白蛇を見るであろう。これは、私の使いである。この白蛇のあとをついて行くがよい。」

久しぶりの太陽を迎えた朝、皆の前に真白い美しい体に真赤な目の白蛇があらわれました。若く元気な若者達が選ばれ、白蛇を追ってヌプカウシヌプリに向かいました。一行は背丈を超える草をかき分けて山の頂上に着くと、遙か前方にキラリと光る山の上の湖を見つけました。

湖の岸辺に辿り着いた一行の目には、水面を跳ねるたくさんの魚の姿が飛び込んできました。水際の浅瀬にはたくさんのザリガニもいます。ふと気付くと、今まで目の前にいた白蛇の姿が見えません。
「神のお告げの場所はここだ。さあ、この魚を採ろうではないか。」

一行は、辺りが暗くなるまで魚とザリガニを採りました。夜、釣り上げた魚を焼いて腹ごしらえし、一行がウトウトとした時、急に星の光が強くなったと思うと、あの女神が大きな白蛇を伴って、宙に浮かんで一行を見下ろしているではありませんか。

「この魚はオショロコマと呼び、この湖にしか住まぬ魚である。これから後、凶作の時のみ食するがよい。いたずらにこの魚を採ることは、自然の恵みに反し、人の心を失うことになることを忘れてはならぬ」
一行は膝まづき、両手をついてその言葉を聞くのでした。

人と自然は調和しつつ生きなければならない。自然を大切にしてこそ、人は生き続けられる。白蛇姫の伝説は、私達に、人としての大切な道を今もなお語りかけています。

この物語の舞台である鹿追町の然別湖では、毎年７月、湖の守り神である女神に１年の豊作を祈願する「白蛇姫まつり」が開催されています。漆黒の闇の中を白蛇が舞う姿はとても幻想的ですよ。ぜひ足を運んでご覧ください。